

平成30年度 現地検討会実施状況

(エゾシカ対策)

4

国有林	53
民有林	15
自治体	13
事業体	6
研究機関	6
その他	6
合計	99

分類	検討会名	開催月日	主催・共催	開催地	出席者	目的	内容	写真	
エゾシカ対策	平成30年度 エゾシカの立木食害等が天然更新等に与える影響調査事業現地検討会	10月23~24日	北海道森林管理局保全課	名寄市(国有林) 下川町(国有林・会議室)	国有林	19名	エゾシカによる森林被害の今後の対策について考察するため、専門家とともに現地で被害状況や林分の変化を確認しながらエゾシカが森林に与える影響の実態に関する現地検討会を実施	平成21年度よりエゾシカの立木食害等が天然更新等に与える影響調査事業を実施している。その事業として、エゾシカによる天然更新等に与える影響について、現地検討会を開催した。 検討会では学識経験者の委員から、開催地の上川北部森林管理署管内における食害の状況についての見解やエゾシカ生息数の管理等について意見をいただいた。	
					民有林	名			
					自治体	2名			
					事業体	2名			
					研究機関	3名			
					その他	名			
					合計	26名			
エゾシカ対策	雄柏地区における自動撮影カメラを利用したエゾシカの動向調査結果報告会	10月30日	網走西部森林管理署西紋別支署	滝上町(国有林)	国有林	9名	自動撮影カメラを用いたエゾシカの動向調査の結果を各市町村担当者及び地元猟友会と共有し、今後の鳥獣被害防止対策に向けた意見交換を行うことで、エゾシカ捕獲連携事業への一助とする。そのため、エゾシカ捕獲連携事業の概要と自動撮影カメラによる調査結果の報告会を実施	支署会議室内で北海道森林管理局保全課から局のエゾシカによる森林被害への取組について、支署からエゾシカ捕獲連携事業の内容と自動撮影カメラを利用したエゾシカの動向調査結果について説明した。 その後、捕獲連携事業実施箇所及び自動撮影カメラ設置箇所の現地へ移動し、現地の概要説明及び意見交換を行った。地元猟友会からカメラの設置方法についての助言や市町村から捕獲に関する国有林との連携について意見があった。 今後も自動撮影カメラによる調査を継続し、捕獲連携事業実施の効果検証や効率的な捕獲に向けて意見交換を行っていく。	
					民有林	名			
					自治体	5名			
					事業体	1名			
					研究機関	名			
					その他	6名			
					合計	21名			
エゾシカ対策	平成30年度 エゾシカによる森林被害緊急対策のための捕獲実践等事業現地検討会	11月16日	北海道森林管理局保全課	平取町(国有林)	国有林	19名	エゾシカの食痕調査等の結果から、森林被害対策を実施する森林を選定し、捕獲体制の構築、複数の手法による効果的な捕獲、スレジカ対策の実証、及び森林被害等の低減が図られたかを確認する手法についての検討会を実施	2月から始まる捕獲作業について、捕獲方法等の最終的な調整と説明を現地にて行った。 現地検討会は、始めに捕獲作業実施者から、囲いワナの設置箇所や、モバイルカリングの射撃位置等の説明があり、説明を受けた学識経験者の委員からは、餌の種類や設置方法等について助言があった。また参加者からは、捕獲の効果を調査する方法等の質問があった。	
					民有林	名			
					自治体	6名			
					事業体	3名			
					研究機関	3名			
					その他	名			
					合計	31名			
エゾシカ対策	第3回林政連絡会議現地検討会	2月5日	根釧西部森林管理署	釧路町国有林	国有林	6名	根釧西部森林管理署におけるエゾシカ対策の取組の1つである囲いワナについて、ワナの構造等を理解してもらうため現地検討会を実施	現地において囲いワナの概要を説明した後、センサーカメラを用いた囲いワナ周辺のエゾシカの出没(誘引)状況及び囲いワナの構造等について説明を行った。 意見交換では、餌の種類等の質問や意見があった。 また、現地検討会に引き続き林政連絡会議を開催し、釧路総合振興局におけるエゾシカ対策の説明を受けたあと、囲いワナの有効性などについて更なる意見交換を行った。	
					民有林	15名			
					自治体	名			
					事業体	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
					合計	21名			